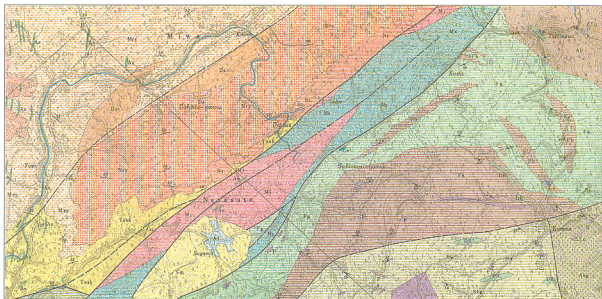


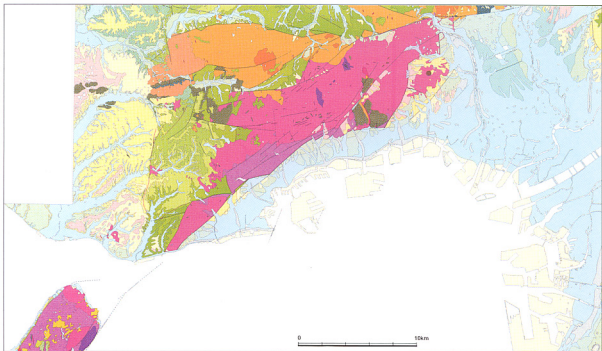
地質図幅の現状とこれから

5万分の1地質図幅の作成・出版は地球科学情報機関としての地質調査所が基幹業務として実施してきた研究の一つである。今後は、デジタル化等による新たな情報提供への対応が求められている。

(詳しくは本文12-13頁参照) <地質調査所 地質部 小玉喜三郎>



1. 地質調査所では、昭和26年度から縮尺5万分の1地質図幅によって全国をカバーする事業を開始した。図は同図幅シリーズ第1号「三河大野」の一部(昭和30年出版)。模様はそれ以前の7.5万分の1の様式に従っていた。



2. 「特定観測地域」の1つである大阪湾周辺については、昭和50年代から精力的に5万分の1地質図幅の調査・出版がされてきた。しかし、長年にわたる調査で出版年度が異なるため、図幅毎に凡例や境界に若干ずれが生じ、広域的な地質情報としては不都合な場合があった。図は、地質情報センターと地質部、環境地質部が共同して現在作成中のデジタル編集版の一部、隣接する8つの図幅をデジタル化した上で凡例などを統合化するなどの編集がされている。最終的にはこの地域の活断層データ等も含めてCD-ROMによる出版を計画中。